

当院の心筋虚血評価 積極的に FFR を施行する必要性について

【はじめに】心筋虚血の機能的評価の一つに FFR(冠血流予備量比)がある。当院では 2018 年 4 月から中等度狭窄に対しても積極的に FFR を施行するようになった。【目的・方法】2017 年度、2018 年度それぞれの FFR を施行した症例の PCI への移行率を調査し検討する。【2017 年度】CAG:631 症例、FFR:43 症例(6.8%)、FFR 施行病変枝:56 枝、FFR 施行病変狭窄率 0%:0 例(0%)、25%:5 例(8.9%)、50%:15 例(26.8%)、75%:24 例(42.9%)、90%:12 例(21.4%)、FFR 施行病変平均狭窄率:65.7%、PCI 移行:17 枝(30.0%)、PCI 移行病変狭窄率 0%:0 例(0%)、25%:0 例(0%)、50%:3 例(20.0%)、75%:10 例(41.7%)、90%:4 例(33.3%)。【2018 年度】CAG:822 症例、FFR:138 症例(16.8%)、FFR 施行病変枝:178 枝、FFR 施行病変狭窄率 0%:1 例(0.6%)、25%:19 例(10.7%)、50%:67 例(37.6%)、75%:65 例(36.7%)、90%:26 例(14.6%)、FFR 施行病変平均狭窄率:59.8%、PCI 移行:82 枝(46.0%)、PCI 移行病変狭窄率 0%:0 例(0%)、25%:3 例(15.8%)、50%:23 例(34.3%)、75%:35 例(53.8%)、90%:21 例(80.8%)。【考察】2017 年度と比較し 2018 年度は 25%~50%程度の狭窄にも積極的に FFR を施行していた。25%、50%程度の狭窄でも FFR で虚血が証明された症例が多く存在した。逆に 90%狭窄でも虚血とされない病変も存在した。正確な診断をするために積極的に FFR を使用し評価することが重要だと考える。【結語】積極的に FFR を施行することで PCI の適正化につながると考える。